

卒業式 式辞

本格的な春の訪れが、そこかしこで感じられる季節となつてまいりました。本日、ここに平成三十年度卒業式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

本学での学びを終え、本日ここに、晴れて卒業を迎えられた皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

全教職員を代表して、お祝い申し上げます。そして、ご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げるとともに、これまで学生の皆さんの成長をしっかりと支え、見守り続けてくださいましたことに、深く敬意を表します。

また、ご臨席賜りましたご来賓の皆様には、卒業生の晴れの門出をともに祝っていただき、誠にありがとうございます。

ただいま、大学二八一人、短期大学部一六三人、計四四四人の卒業生に「卒業証書・学位記」を授与いたしました。四年間、三年間、二年間、学びの期間はさまざまですが、この「卒業証書・学位記」は、皆さんがそれぞれの学部・学科で勉学に励み、兵庫大学、兵庫大学短期大学部での学びを終えられた証です。

そして今日は、多くの人に支えられ、見守られて、学生生活を送り、これから、社会人としての歩みが始まるという節目の日でもあります。

卒業生の皆さん。われわれ教職員の共通の願いは、全ての方が社会の一員として、社会に貢献し、幸せで豊かな人生を送ってほしいということです。

これから始まる長い人生において、たくましく、そしてしなやかに歩んでいけることを願っています。

さて、皆さんは、兵庫大学、兵庫大学短期大学部で何を学んで来られたでしょうか。資格を取得したり、なりたい職業に就くために、専門分野や関心に応じた知識をそれぞれ精一杯に吸収されてきたことと思います。

せっかく得た知識ですから、活用しなければなりません。知識は所有するものではなく、活用し、発展させることで、本当の価値を発揮します。これからは、得た知識を何のために、どのように生かしていくかが問われます。皆さんは、その

活かし方も在学中に多くを学んでいるはずです。難しい課題に対して、仲間と共に努力し、支え合い、分かち合うことで、乗り越えてきた経験が、必ずや皆さんの一生の財産となると信じています。

「イノベーション」という言葉をよく耳にしますが、この言葉は、これまでのモノ・仕組みなどに対して、全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出して社会に大きな変化を起こすことを指します。

一人ひとりが有している知識や技術が、人と人の繋がりの中で融合し、さらに良いものになっていくことを、皆さんは本学での学びの中で、経験をしてこられたと思います。これから社会人としての歩みを進めていかれる中でも、皆さんは、たくさんの人々と出会い、多くのことを学び、誰かと共に何かを生み出していく。それがささやかなものであったとしても、社会を良き方向へいざなう一助であってほしいと思います。そして、人々と喜びを分かち合う、豊かな人生を歩んでいただきたい、そう願っています。

卒業生の皆さんが本学で身につけられたものには、今お話しした知識や知識を探究する姿勢とともに、「和」の精神があったことを今一度思い起こしていただきたいと思います。

本学の建学の精神は、ご存知のとおり、聖徳太子の十七条憲法に示された「和」です。聖徳太子は、多くの名言と呼ばれるものを残していますが、一貫して「和」を基本としています。

そこでは、自分の心を大切にしながら、他者の心も大切にする、他者の思いを受け入れることが説かれています。一言で表現すれば、「互いを尊び 互いを活かす」ということではないでしょうか。

人として感じる心、共感する心、人への慈しみの心、思いやりに溢れた心を大切にしたいと思います。

最後に、卒業していく皆さんに、もう一つお伝えしておきたいことがあります。これから皆さんが歩む長い人生は、無限の可能性を秘めています。ただ、これまでの人生の中で体験したことのないような大きな壁にぶつかることもあるでしょう。

そのような時には、大学、短期大学での学びや経験を基礎としながら、さらに

学び、柔軟な思考を巡らせ、乗り越えていただきたいと思います。

日々の生活の中から、さまざまなことを見て、感じて聴き入って考える、その姿勢が、皆さんの個性、智慧となり、問題を解決し、皆さんの成長に繋がっていくはずです。

それでもなお、壁を乗り越えれそうにない時は、私たちを訪ねてください。もし皆さんが、これからの人生の中で孤独に苛まれるようなことがあったとしても、決して一人ではないことを思い出してください。私たちは常にあなた達と共にあります。

いつでも帰っていらっしゃい。

それでは、卒業生の皆さんが、これからの長い人生をしっかりと歩まれ、健康で幸せでありますことを、心より念じまして、平成三十年度卒業式の式辞とします。

平成三十一年三月二十三日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

学長 河野 真